



# ローズバスのルート改正に関する経緯

旧ローズバスルート（両廻り）



H12年度から試験運行開始～  
H31.1.31

当初の導入理念  
 ・地域福祉を考慮し、既存路線バスとの整合を図りながら鉄道駅や主要公共施設等を効率的に結ぶ。  
 ・高齢者・障害者等の交通弱者や路線バス圏外住民の交通便利性の向上を図る

■交通幹線は鉄道と路線バスであり、路線バスのフィーダーとして路線バス圏外について運行を開始。  
 ■バス2台(予備者1台)にて運用。  
 ■一周90分(休憩を含む) 左右廻り各6便/日  
 ■100円均一料金(大人1回あたり)  
 □H12年度から試験運行開始  
 □H15年4月星和上松台まで延伸  
 □H20年4月本格運行開始  
 □H24～25 新ルート(山北東地区)で要望を受けて、試験運行実施(2回)目標値を下回り本格運行への移行を断念

旧ローズバスルート（片廻り）

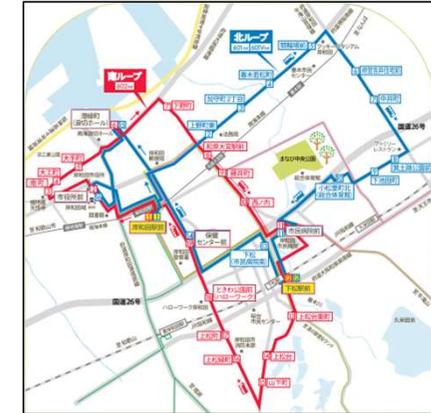


H31.2.1～R3.5.31

改正の見出し・ポイント  
 1) 利便性向上による利用者拡大  
 2) 運行費削減  
 3) 利用者負担の適正化

■実施内容  
 1) 利便性向上による利用者拡大  
 ①ルートの分割と効率化  
 ・時間短縮(1周60分以内)と便数増(6便/日→8便/日)  
 ②パターンダイヤの導入  
 ・すべての停留所に1時間に必ず1本、岸和田駅前毎時05分発車  
 ③乗継割引導入  
 ・ローズバスと路線バスを乗継ぎした場合、割引適用  
 ④バスロケーションシステム導入  
 ・スマホ等による走行位置リアルタイム表示  
 2) 運行経費削減策  
 ⑤バス停留所の統廃合  
 ・利用の低いバス停(0.5人/便)の統廃合(ただし、バス停留域300mは保持する)  
 ⑥運行日の見直し  
 ・月～土 →平日(月～金)運行に変更(多くの公共交通機関が土日ダイヤで運行また、土曜日の利用が平日の約8割にとどまることから)  
 3) 利用者負担の適正化  
 ⑦運賃の改正(100円 → 170円)  
 ・路線バス初乗り運賃との整合  
 ・山手地区での地域バスを見据えた公費負担の適正化

現ローズバスルート（片回り）



R3.6.1～現在

改正の見出し・ポイント  
 1) 目的地までの乗車時間の短縮  
 2) ダイヤの変更

■実施内容  
 1) 目的地までの乗車時間の短縮  
 ①バス停の追加  
 ・北ループに下松駅前、港緑町、市役所を追加  
 ・南ループに藤井町、西ノ内、保健センター前を追加  
 ②市民病院を目的とする方の徒歩移動の省力化  
 ・下松(市民病院南)から市民病院前に停留所を変更  
 ③両廻り運行のような利用を可能に  
 ・港緑町、市役所前、岸和田駅の間においては両廻り運行のような利用が可能にした  
 2) ダイヤの変更  
 ④保健センターの利便性向上  
 ・保健センターで13時から行われる乳幼児健診等に配慮した12時台の運行  
 ⑤買物利用者の利便性向上  
 ・買物利用時間帯である9時から14時台までの利用者に関しては、下松駅でも南北ループの乗り継ぎが可能